第3号　(1998.12.26発行)
国絵図ニュース
発行 国絵図研究会〒862-0971熊本市大江2-5-1
熊本学園大学社会福祉学部上原研究内
TEL096-364-5162・FAX096-372-0702

99年度の活動計画の予定

会員の皆様には、良いお年をお迎えのことと存じ申し上げます。今年も旧年に変わりない国絵図研究会へのご協力を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

さて、本年度の活動計画について次の２個所について予定案が参りましたので、早速ご報告申し上げます。また、これ以外に開催の希望場所などがありましたならば、事務局にお知らせ下さい。積極的に対応していきたいと存じます。

□第１案

開催場所：大分県臼杵市図書館　稲葉家文書

開催時期：夏期

幹事：上原秀明（熊本学園大学）、小野寺淳（茨城大学）

稲葉家文書には、慶長・正保・元禄豊後国絵図をはじめ多くの絵図が所蔵されています。図書館は狭いために閲覧場所を隣接する稲葉家屋敷にて行なうべく上原・小野寺両先生に交渉をお願いしています。一泊の予定で国絵図を中心に熟覧を行ないたいと思います。

◇第２案

開催場所：東京税務大学校

開催時期：秋期

幹事：川村博忠（東亜大学）

税務大学校には、東北地方の国絵図があるもようです。現在、川村先生に所蔵状況と閲覧交渉を行なっていただいております。但し、同校は移転の予定があるようで今後のスケジュールに応じて変更の可能性があります。秋の学会シーズンを予定しています。

98年度の会計報告

98年度から会費の徴収にともない例会の定例化とニュースを発刊することとなりました。会員の皆様のお力添えを得、お陰様を持ちましてなんとか無事に２回の例会と３号のニュース３号を発刊することがでました。感謝しております。会計担当の小野寺淳、礒永和貴の両氏より会計報告が以下の通り参りました。宜しくご了承下さい。（上原秀明）

歳入　会費	(会員総数49名内未払い３名)	2,000円×46人＝92,000円
歳出		
払い込み料加入者負担	60円×46人＝	2,760円
国絵図ニュース印刷費	10円×60部×６枚×３回 ＝	10,800円
会員募集通知及び郵送費	100円×100通 ＝	10,000円
ニュース郵送費	180円×49部×３回 ＝	26,460円
研究会補助費（土産代・交渉費など）	10,000円×２回 ＝	20,000円
事務連絡費		4,720円
文房具（封筒、糊など）		5,350円
歳出合計		80,090円
繰越金（来年度会計へ）		＋11,910円

研究余滴　談山神社所蔵の正保大和国絵図編纂に伴う村差出絵図

礒永　和貴

かつて筆者は、正保国絵図の編纂に伴って非領国では村差出帳とそれに付属する村絵図が提出されたと主張したことがあった（「正保国絵図の調査と「村差出帳」―山城国・相模国を中心に―」鷹陵史学22号、1996）。その村差出絵図の実例として正保山城国絵図の編纂に伴って提出された金閣寺領の「山城国葛野郡大北山村領麁絵図」（鹿苑寺文書）と同国相楽郡の「神童寺村絵図」（『山城町史』所載、大西大治家文書）を紹介した。前者は確実に正保のものと思うが、後者についてはその後に自信がなくなった。大和国でも村差出帳とその付属絵図の提出を下記の史料でほぼ明らかにしたが、残念ながらその実物を発見することができなかった。また、相模・丹波でも明細帳はあるがその絵図はみられない。従って、確証のあるものは１点だけにすぎず、本当に正保国絵図の村明細帳に村絵図が必ず付されていたのか、少しばかり気がかりになっていた。

八五九　本多内記政勝、植村出羽守家政（大和国絵図元）**連署書状**／（）は、礒永補注

以上

一筆令啓達候、然者大和一国之絵図被仰付候間、**御領分之絵図**(東大寺領絵図)**村々之高帳**(村差出帳)御書付差上ケ可在之候、絵図帳共ニ相違無之様ニ被入御念可被仰付候、次従公儀出申候覚書之内、郡切ニ入申候所書出シ別紙ニ進之候、為其如此候、恐惶謹言、

植村出羽守（高取藩主）

壬(正保二年) 五月十三日　　家政　花押

在江戸ニ付加判無之候

本多内記（大和郡山藩主、政勝）

東大寺

（大日本古文書家わけ一八、東大寺文書之三、〈東南院文書之三〉）

ところが、平成10年９月19日から11月15日に奈良県立民俗博物館で開催されたの特別展「初瀬・多武峰山麓の民俗―祭礼と宮座」で談山神社所蔵の正保２年９月16日の作成日を持つ「多武峰絵図」（右図）が展示され、同展の図録にも所収された。

また、談山神社文化財調査委員会編『談山神社文化財目録美術工芸・文書篇』（談山神社、1993）によると、明細帳はないようであるが同社領の正保二年の百済村と広瀬村（現、広陵町）の村差出絵図が所蔵されていることを知りえた。さらに、天保国絵図に関連すると思われる村絵図もある。まだ、現物そのものは実見はできてないが、同博物館のご好意で写真ではあるがその内容もほぼ確認することができた。

多武峰絵図は、談山神社を中心にして、その真上から展開するするように周辺の村々を詳細に描いた美しい絵図である。特に談山神社の諸堂や社家の町並は、墨絵風の画風に鮮やかな朱色を施しており目をみはる。

多武峰絵図と正保大和国絵図（名古屋市蓬左文庫所蔵）と比較するとその村数も多く、道や自然地名などもはるかに詳しい。また、十市郡と高市郡の郡境も直線的に描かれており、これらの図をもとにして正保大和国絵図がいかに編纂されたかを考察することも可能となろう。

図の北東隅のには作成年に続いて「絵師泉州海塚住木村源右衛門好重」の名があり、北西隅には談山神社の各門から各地点への距離がみられる。また、同じ木村の手になると考えられる百済村、広瀬村の村絵図は、多武峰絵図にまして詳細で小字名までも記されている。さらに上述したように同村の天保国絵図に伴って作成されたと考えられる村絵図や文禄からの検地帳が多数残っている。国絵図の関係史料としてだけではなく、さまざまな活用研究に利用が可能であろう。

いずれ記載内容の詳しい分析を行ないたいと思っているが、先の拙稿で見落とした正保大和国絵図の編纂に提出の村差出絵図の多武峰絵図を示し、少しばかりの論の補強をしておくことにしたい。

各地の国絵図

毛利家文庫「日本図」所収の尾張国絵図

―原図作成時期をめぐる疑問―

土田良一

平成９年度国絵図研究会が山口県文書館で開かれた。その際、毛利家文庫所蔵の多数の国絵図を閲覧させていただき、川村博忠先生の解説をお聞きする機会を得た。また、先生からは多くの抜刷をいただき、私としてはまたとない勉強の機会となった。閲覧した絵図の中で、寛永の国絵図に関係するとされる68枚の国別略絵図を納める「日本図」が紹介され注目された。この紙面を借りて、その時撮影した写真を見て考えたことを書くことで参加報告に代えたいと思う。

すでに紹介されている「日本図」所収の国絵図（以下「余川図」と呼ぶ）は、各国の略絵図であり、見やすく持ち運びしやすいものになっている。ここでは、「尾張国絵図」について、その記載内容から絵図作成時期について再考することにする。川村説（川村1995）は、寛永10年頃作成の国絵図をもとにした縮小模写図とするのに対し、礒永説（礒永1997）は縮写図ではなく巡見使に伴って慶長国絵図の類を修正した図の写しとし、巡見使によって作成されたものとする。すなわち両氏とも寛永10年巡見使派遣に伴って作成されたとする点では共通の見解を示している。このことは、巡見使派遣の目的に添って当時の状況が記載されていなければならないことになる。尾張国絵図の記載内容を見ると、道筋、国境調査を目的とする寛永10年巡見内容から、その結果を記載したものでないことに気付く。以下、その例を幾つかあげてみよう。

まず第一に注目されるのは、木曽街道及び佐屋路ルートが記載されていない点である。また、下街道が羽黒村で犬山街道と分かれて描かれていることなど、その後の尾張国主要街道が抜けているか、異なるルートであることが不可解となる。佐屋路は、寛永11年起立と考えれば不都合はないが、寛永３年家光還御の通行は佐屋路ルートをとり、万場の船橋が架橋され、熱田に宿泊している。この還御通行ルートは、寛永11年にも採用されている。前年には街道整備が行われ、将軍上洛ルートの巡見が年寄・大目付等によって行われている。同時期に派遣されている東海道巡見使がこれを無視するであろうか。木曽街道は、小牧から先が記載されず、当然善師野宿が記入されていない。このことは、木曽街道が犬山経由で中山道鵜沼宿へ出ていた時代を示している。善師野が宿縄機能をもつことは、元和７年から知ることができ、元和９年には整備され、寛永期には定着していた。下街道との荷物輸送をめぐる争論も寛永元年には起きている。このことからでも、道筋の記入は寛永10年どころか寛永期のものではなく、元和以前に遡る。

第二に注目されるのは、美濃路に記入された内容である。名古屋伝馬橋を過ぎ、「ヒワ渡」が川の両岸に記入されている。これは枇杷橋架橋以前の船渡しの存在を示すものである。また、「清洲」の記載はなく「北市場」と書かれている。度長15年清洲越によって名古屋に城下町が移転した後の絵図であることは言うまでもないが、清洲の新たな宿立は元和２年北市場村地内であった。枇杷橋架橋は元和８年とされ、船頭給から橋掃除給に変更されたとされる。

第三に、岐阜街道上には一宮・黒田・北方村が記載され、北方手前で美濃笠松への別の

道が記入されている。里小牧（未記入）から木曽川を渡るコースは、慶長19年藩主徳川義直が大坂冬の陣で通行したことが例となり本道となったと伝えているものである。

これら三点の道筋に関するものだけでも、寛永期の絵図とは考えにくく、元和２年から７年の間に作成年代を比定してもおかしくはない。余川図の中の尾張国絵図の原図作成は、元和２年から７年に絞られてこよう。この間、秀忠は元和３年と５年に二回岐阜を経由して上洛している。上洛ルートに、将軍の宿泊’休息施設である御殿・御茶屋が記入されていることとも矛盾しない。一方、藩主の御殿・御茶屋は記載されていない。豊臣家滅亡後、大御所家康の死去を受けて秀忠政権が本格化した時期であった。

この間、『徳川実紀』の記事で注目されるのは、元和３年渡辺図書宗綱・永井監物白元・牧野清兵衛正成を各国巡視の使いとして派遣したことを記していることである。渡辺は、元和３年使番から目付に登用され、翌年には肥後国に派遣され仕置を担当している。永井は、慶長９年中山道の一里塚築造を担当した人物であり、その後諸国の一里塚検分をしている。慶長16年には目付になり、寛永10年には小出・桑山とともに東海道巡見使として派遣された人物である。牧野は、目付に代わって渡辺・永井とともに元和４年「諸国を巡視し制法を達」（『寛政重修諸家譜』）し、同５年に目付に登用されている。この三人は、元和３・４年に諸国を巡視し、幕府の威光を知らしめる役割を負っていた。彼等のもとで、余州図に含まれる尾張国絵図の原図が作成されたとすれば話は整合性をもつことになる。

とすればこの時の巡見目的は何であったのか。幕府の「制法」とは何か。絵図の記載内容からすれば、道筋・浦が重要視されている。それよりも注目されるのは「古城」の記載である。元和元年実施された一国一城令の実施状況、武家諸法度、領知朱印状の確認となれば目付の重要任務としてうなずける。この時作成されたものが、余州図の中の尾張国絵図の原図とすれば、記載内容とは矛盾しない。さらに、寛永10年東海道巡見使として派遣された人物に同一人物が含まれていることで、この時利用され残存していてもうなずけるものがある。

さらに、余州図作成のもととなった国絵図作成が、川村氏が指摘（川村1984）する元和２年肥前・美濃国絵図提出、年不詳であるが伊達家への老中連署状による国絵図提出要請であったとすれば、話は連動することになる。

以上、勝手な推論を素人なりにしてみた。国絵図研究会でさらに議論が深まり御教示を得られれば幸いである。考えるきっかけをいただいた川村・礒永両氏、参加を呼び掛けてくれた上原氏、当日御世話になった文書館の河村氏はじめ参加された先生方に御礼申し上げ、参加した責を務めたい。

参考文献

川村博忠「江戸幕府撰国絵図の研究」古今書院、1984
同上「寛永国絵図の縮写図とみられる「日本六十余州略国絵図」」歴史地理学37-5, 1995
同上「毛利家文庫「日本図」中の周防・長門国について」エリア山口、1996
礒永和貴「長澤家文書の九州図と寛永巡見使」熊本地理8. 9、1997
林英夫「木曽街道の宿場町—尾張の藩営街道—」史苑17-1、1956
桜井芳昭「藩営街道と脇往還との関係について」地理学報告47、1978
拙稿「近世尾張国の助郷」鹿児島短期大学研究紀要59、1996
同上「徳川家光上洛通行と賦役」（丸山雍成編「近世交通の史的研究」（仮題）文献出版1998等

国絵図研究会の運営等についての報告

過日（１９９８年７月３日付で）、上記の事柄につきまして、賛同人各位にご意見を賜わりました。その資料を参考にして長野例会の時に意見交換をさせていただく予定にしておりましたが、時間的な余裕がなく、本日、このような形でご報告申し上げる次第です。

質問1 『国絵図ニュース』の内容への要望

研究会で取り上げる対象を国絵図（伊能図を含む）に限定せずに、関連資料類（郷帳を含む）についても取り上げてほしいとの意見や、古地図展に関する各地の情報を知りたい（後述する各関連機関とのリンクが必要）という声が上がっております。

質問2　会運営の方式について

特定の個人に過重な事務負担が及ぶことのないように心がけ（たとえば運営の主体を数年単位でローテーション化するなど）て欲しい。また、若い人材を養成していくためにも委員会を構成して運営をしていくなどの方策が提案されました。

質問3　会費の使用項目の明確化について

年会費の使用に際しては、その明朗さを保つためにも簡単でもよいから予算決算書を作成し、その監査についても実施したほうが良いという意見がみられました。具体的には例会費用として一定金額を決めておくこと、あるいは会の開催準備に要した費用を細かく請求していただく（ただし、電話代金などは一定の金額にする）などの方法が示されております。これについては、本ニュースの会計報告として活かしました。

質問4　次回以降の研究会開催計画や内容への要望

永く続けられるような運営を心がけ、無理な運営はさける。従来どおり学会開催などの時期の前後に開くことが望ましいという意見が多くありました。今後の候補地としては東北（青森・盛岡・仙台）、東京、九州（臼杵）、神戸が名乗りを上げられております。新年度は、ニュースの通り東京と臼杵を計画していますが、それ以外にも会員諸氏の積極的な参画を期待しております。

質問5　独自の企画

『当該ニュース』の中で文献目録を紹介していくこと。会独自で図録を作成し出版していくなどの企画も提案されました。前者については、早速本ニュースから掲載を開始しました。また、地理学関係者以外にも博物館や日本史研究者の立場からの積極的な発言を希望する意見もみられました。

質問6　その他

各地の自治体史編纂室との連携をとり最新の情報を得ることや、インターネットのホームページを開設して、他の機関とのリンクを容易にすることなどがみられました。また、会で科学研究費を申請するなどの積極的行動を促す提案もありました。

以上、いずれも傾聴に値する貴重なご意見を頂戴することができました。いずれかの機会を見つけてこれらの諸課題について検討をし、よりよい運営を目指し努力を重ねていくつもりでございます。ご回答下さいました先生方には心より御礼申し上げます。なお、会員の皆様方におかれましても、ご要望がございましたら、どしどし、ご意見をご投稿下さいますと幸いに存じます。これからも『ニュース』紙上ででも取り上げていきたいと考えておりますので、会への積極的な関わりを宜しくお願い申し上げる次第であります。

（文責　上原秀明）

本の紹介

『山梨県史資料編８、近世１領主』付図

元禄甲斐国絵図及び都留郡絵図について

♠編集　山梨県教育委員会
♡出版　山梨日々新聞社出版局
♣価格　6,600円（送料610円）
◇購入方法　山梨日々新聞社出版局へ電話で申し込み下さい。
TEL０５５２－３１－３１０５

元禄甲斐国絵図は、甲府宰相徳川綱豊が編纂したものである。彼は六代将軍（家宣）となり、かわりに甲府には柳沢吉保が入封した。その後、吉保の息子であった吉里の大和郡山への移封にともない関係史料が持ち去られ、郡山城内の柳沢文庫に伝存されてきた。その中に元禄甲斐国絵図と都留郡絵図が所蔵されている。元禄甲斐国絵図はあまりに大きいために柳沢文庫での閲覧は停止されており、残念ながら現物をみることはできない。今回の付図によってその概要をつかみとることができるようになった。

都留郡絵図は幸いにも記載文字の解読が可能で、その様式からみて正保国絵図編纂にともなって作成された郡図と考えてよいであろう。また元禄甲斐国絵図の記載内容は読み取ることはかなり厳しいが、幸運にも柳沢文庫にこの図を縮小したと思われるものがあり（吉保の日記「楽只堂年録一六一巻」茶表紙本の巻頭に挿入）対比が可能である。また、同史料集には国絵図の関係資料も若干含まれている。

〈文献目録-1998年1-〉 編著者五十音順

阿部俊夫（1998）：論所裁許と立会絵図一寛文九年『刈田郡湯原村与伊達郡茂庭村与山境御論所絵図』（研究紀要20〈福島県歴史資料館〉）
礒永和貴（1998）：長澤家所蔵の九州図と寛永巡見使（熊本地理８・９）
伊能忠敬研究会編(1998)：忠敬と伊能図（株式会社アワ・プランニング）
上原秀明・礒永和貴：国絵図調査法（熊本学園大学）
川村博忠（1998）：池田家文庫所蔵の寛永日本総図について（地図36-１）
川村博忠（1998）：江戸初期日本総図再考（人文地理50-５）
黒田日出男（1998）：南葵文庫の江戸幕府国絵図（東京大学史料編纂所付属画像史料解析センター通信１、２、３）
長野市立博物館編（1998）：信濃国絵図の世界（長野市立博物館）
奈良県立民俗博物館編(1998)：特別展　初瀬・多武峰山麓の民俗一祭礼と宮座一(奈良県立民俗博物館）

◎新入会員の紹介

久武哲也先生（甲南大学）に入会されました。住所は下記の通りです。
〒５６５－０８０４　大阪府吹田市新芦屋上17-1-203　TEL０６－８７６－４５８３

編集後記

本号には、本会で最も若い神戸大学大学院生の喜多祐子さんより玉稿を賜りました。喜多さんには、出身地の山口県の国絵図を紹介していただきました。深くお礼申し上げます。

賛同人の諸先生のご意見をもとに、会計報告と国絵図文献目録を載せました。後者には、会員の皆様の積極的な情報が必要です。是非ともご協力を賜りますよう。

西暦２０００年に余すところ１年です。今年の内に果たして景気はよくなるのでしょうか。編集子のタッチする自治体史の編纂事業も財政困難のようです。文化活動が景気の低迷で片隅に追いやられるのは残念でなりません。「文化とは、ブツ、ブツ・・・」。

《国絵図ニュース編集担当》　礒永　和貴
〒611-0023　京都府宇治市折居台１－１４宇治市歴史資料館内　TEL 0774-20-1311